

(様式第9)

奈医病管第 61 号  
平成21年

厚生労働大臣 長妻 昭 様

公立大学法人奈良県立医科大学  
理事長 吉 岡 謙

奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。  
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

|        |      |               |
|--------|------|---------------|
| 研修医の人数 | 95 人 | (研修歯科医 6人を含む) |
|--------|------|---------------|

- (注) 前年度の研修医の実数を記入すること。
- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
  - 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
  - 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
  - 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種    | 常勤   | 非常勤  | 合計     | 職種      | 員数  | 職種          | 員数  |
|-------|------|------|--------|---------|-----|-------------|-----|
| 医師    | 366人 | 145人 | 394.6人 | 看護業務補助  | 29人 | 診療エックス線技師   | 0人  |
| 歯科医師  | 19人  | 29人  | 22.6人  | 理学療法士   | 5人  | 臨床検査技師      | 70人 |
| 薬剤師   | 46人  | 7人   | 49.7人  | 作業療法士   | 1人  | 衛生検査技師      | 1人  |
| 保健師   | 0人   | 0人   | 0.0人   | 視能訓練士   | 3人  | その他         | 0人  |
| 助産師   | 27人  | 0人   | 27.0人  | 義肢装具士   | 0人  | あん摩マッサージ指圧師 | 1人  |
| 看護師   | 720人 | 34人  | 741.9人 | 臨床工学技士  | 8人  | 医療社会事業従事者   | 0人  |
| 准看護師  | 11人  | 2人   | 11.9人  | 栄養士     | 0人  | その他の技術員     | 8人  |
| 歯科衛生士 | 2人   | 0人   | 2.0人   | 歯科技工士   | 2人  | 事務職員        | 81人 |
| 管理栄養士 | 8人   | 0人   | 8.0人   | 診療放射線技師 | 43人 | その他の職員      | 18人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

|              | 歯科等以外   | 歯科等   | 合計      |
|--------------|---------|-------|---------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 698 人   | 16 人  | 714 人   |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,857 人 | 108 人 | 1,965 人 |
| 1日当たり平均調剤数   | 3,506 剤 |       |         |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

| 先進医療の種類  | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|--|------|--------|
| 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術   | 無    | 人      |
| 膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)                                   | 無    | 人      |
| 胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)  | 無    | 13人    |
| インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)  | 有    | 10人    |
| 顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 人工括約筋を用いた尿失禁の治療  | 無    | 人      |
| 光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)                                | 無    | 人      |
| スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンピン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンピンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)    | 無    | 人      |
| 筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断  | 無    | 1人     |
| SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)                         | 無    | 人      |
| 三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。) | 無    | 人      |
| 子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)  | 無    | 3人     |
| 成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)   | 無    | 3人     |
| 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)         | 無    | 人      |

| 先進医療の種類  | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|--|------|--------|
| 乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)  | 有    | 2人     |
| ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)   | 無    | 5人     |
| 難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。) | 無    | 7人     |
| 重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)  | 無    | 2人     |
| 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)  | 無    | 1人     |
| 31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 神経芽腫のRNA診断   | 無    | 人      |
| 硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植   | 無    | 人      |
| 膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)   | 無    | 人      |
| 低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)   | 無    | 人      |
| 悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析   | 無    | 10人    |
| Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 家族性アルツハイマー病の遺伝子診断  | 無    | 人      |
| 膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療  | 無    | 70人    |
| 泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)   | 無    | 人      |

| 先進医療の種類   | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|---|------|--------|
| HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植 (HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術 (頸椎椎間板ヘルニア (画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの (後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。)) に係るものに限る。)                   | 無    | 人      |
| ケラチン病の遺伝子診断 (水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断   | 無    | 人      |
| 末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの) に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。)) に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの) に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。)) に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術 (双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例 (妊娠十六週から二十六週に限る。)) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 (肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 先天性銅代謝異常症の遺伝子診断 (ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 超音波骨折治療法 (四肢の骨折 (治療のために手術中に行われるものを除く。)) のうち、観血的手術を実施したもの (開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)) に係るものに限る。)  | 有    | 2人     |
| CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 (ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るもの) に限り、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術時に限り。)) の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。) | 無    | 人      |
| X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術 (難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 (骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍搔爬術後若しくは骨髄炎搔爬術後の症状に係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 膀胱水圧拡張術 (間質性膀胱炎に係るもの) に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 色素性乾皮症に係る遺伝子診断  | 無    | 人      |
| 先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断   | 無    | 人      |
| 歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法 (歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術 (人工股関節のたるみに係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 腹腔鏡下直腸固定術 (直腸脱に係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 骨移動術による関節温存型再建 (骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 肝切除手術における画像支援ナビゲーション (原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 (腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん) に係るもの) に係るものに限る。)   | 無    | 人      |

| 先進医療の種類  | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|--|------|--------|
| 自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)  | 無    | 人      |
| フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)  | 無    | 人      |
| 腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類 I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断   | 無    | 人      |
| RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)  | 有    | 5人     |
| マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。) | 無    | 人      |
| 内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齧蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)  | 無    | 人      |
| 大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の拳上が不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)  | 無    | 3人     |
| 無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)   | 無    | 人      |

| 先進医療の種類  | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|--|------|--------|
| 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断   | 無    | 人      |
| 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)                                      | 有    | 3人     |
| 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索   | 無    | 4人     |
| カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 胎児尿路・羊水腔シャント術(ブルー・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)                                       | 有    | 0人     |
| 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)  | 有    | 0人     |
| 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIH)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。) | 無    | 人      |
| 早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索   | 無    | 人      |
| 副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)   | 無    | 人      |
| 腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)   | 無    | 人      |
| 根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)  | 無    | 人      |
| 内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)   | 無    | 人      |

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名               | 取扱い患者数 | 疾患名                       | 取扱い患者数 |
|-------------------|--------|---------------------------|--------|
| ・ベーチェット病          | 31     | ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)        | 41     |
| ・多発性硬化症           | 53     | ・ウェゲナー肉芽腫症                | 3      |
| ・重症筋無力症           | 52     | ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症          | 96     |
| ・全身性エリテマトーデス      | 210    | ・多系統萎縮症                   | 17     |
| ・スモン              | 14     | ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)       | 1      |
| ・再生不良性貧血          | 45     | ・膿疱性乾癬                    | 4      |
| ・サルコイドーシス         | 33     | ・広範脊柱管狭窄症                 | 4      |
| ・筋萎縮性側索硬化症        | 39     | ・原発性胆汁性肝硬変                | 68     |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 177    | ・重症急性膵炎                   | 16     |
| ・特発性血小板減少性紫斑病     | 65     | ・特発性大腿骨頭壊死症               | 75     |
| ・結節性動脈周囲炎         | 35     | ・混合性結合組織病                 | 22     |
| ・潰瘍性大腸炎           | 168    | ・原発性免疫不全症候群               | 6      |
| ・大動脈炎症候群          | 21     | ・特発性間質性肺炎                 | 14     |
| ・ピュルガー病           | 20     | ・網膜色素変性症                  | 8      |
| ・天疱瘡              | 27     | ・プリオン病                    | 3      |
| ・脊髄小脳変性症          | 80     | ・原発性肺高血圧症                 | 10     |
| ・クローン病            | 51     | ・神経線維腫症                   | 17     |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎    | 4      | ・亜急性硬化性全脳炎                | 0      |
| ・悪性関節リウマチ         | 16     | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群  | 3      |
| ・パーキンソン病関連疾患      | 272    | ・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)        | 5      |
| ・アミロイドーシス         | 5      | ・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む | 0      |
| ・後縦靭帯骨化症          | 30     | ・副腎白質ジストロフィー              | 0      |
| ・ハンチントン病          | 2      |                           |        |

1450

413

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

計

1863

## 3 病院・臨床検査部門の概要

|                                     |  |          |
|-------------------------------------|--|----------|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況                | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。<br>② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |          |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 剖検CPC 年間30回、悪性リンパ腫カンファレンス 月1回、<br>皮膚病理カンファレンス 週1回        |          |
| 剖検の状況                               | 剖検症例数 30例  | 剖検率 8.1% |

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名   | 研究者氏名 | 所属部門     | 金額(千円) | 補助元又は委託元 |           |
|---|-------|----------|--------|----------|-----------|
| ワタナベ'高脂血症ウサギ'を用いたインテリジェントナ/DDSおよび超音波の不安定プラークに対する影響の確認、ウサギ動脈血栓閉塞モデルおよびブタ急性心筋梗塞モデルにおけるインテリジェントナ/DDSと超音波併用による血栓溶解効果の確認に関する研究 | 斎藤 能彦 | 第1内科学    | 27,000 | 補<br>委   | 医薬基盤研究所   |
| MRIを用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出   | 斎藤 能彦 | 第1内科学    | 25,000 | 補<br>委   | 厚生労働省     |
| 心腎関連の基盤たる分子機序の解明  | 斎藤 能彦 | 第1内科学    | 8,060  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 慢性腎臓病に合併する高度動脈硬化症に対する創薬標的としての可溶性FLT1の研究   | 上村 史朗 | 第1内科学    | 2,860  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| FSP1陽性ホトサイトによる糸球体保護作用に関する検討   | 岩野 正之 | 第1内科学    | 2,860  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 胚性幹細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の同定と単離   | 久保 篤史 | 第1内科学    | 2,860  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 右心不全発症に関与する新規遺伝子の探索とその機能解析と医療への応用   | 斎藤 能彦 | 第1内科学    | 3,100  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 心不全における転写抑制因子NRSFの役割<br>心・副腎関連について  | 染川 智  | 第1内科学    | 1,170  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 呼吸不全に関する調査研究  | 木村 弘  | 呼吸器・血液内科 | 1,000  | 補<br>委   | 厚生労働省     |
| 慢性呼吸不全によるグレリンの臨床応用研究班   | 木村 弘  | 呼吸器・血液内科 | 4,500  | 補<br>委   | 厚生労働省     |
| 睡眠時無呼吸による低酸素ストレスは全身性炎症を惹起し動脈硬化を促進させる  | 木村 弘  | 呼吸器・血液内科 | 3,700  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 慢性閉塞性肝疾患の全身性炎症における肺-消化管ネットワークの意義  | 吉川 雅則 | 呼吸器・血液内科 | 800    | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 妊娠中の大気汚染曝露は次世代の気管支喘息発症を増加させる  | 濱田 薫  | 呼吸器・血液内科 | 1,100  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 力学的呼吸負荷に対するヒト肺構造維持のメカニズム:コラーゲン線維三次元配列の解析  | 友田 恒一 | 呼吸器・血液内科 | 1,100  | 補<br>委   | 文部科学省     |
| 喘息気道モデリングに及ぼす喫煙の影響  | 濱田 薫  | 呼吸器・血液内科 | 2,000  | 補<br>委   | 喫煙財団      |
| 喫煙が体重減少をもたらす機序の解明:肺-消化管ネットワークからの探求  | 吉川 雅則 | 呼吸器・血液内科 | 2,000  | 補<br>委   | 喫煙財団      |
| 胎児期及び乳幼児期の室内大気汚染物質が喘息発症に及ぼす影響についての検討  | 木村 弘  | 呼吸器・血液内科 | 1,084  | 補<br>委   | 住居医学研究奨励金 |

小計17



| 研究課題名                                    | 研究者氏名 | 所属部門     | 金額(千円) | 補助元又は委託元                                   |
|--|-------|----------|--------|--|
| 快適な睡眠を目指した研究-カオス解析を用いた睡眠時呼吸に及ぼす睡眠環境の影響-  | 木村 弘  | 呼吸器・血液内科 | 2,000  | 補委 住居医学研究奨励金                               |
| スモンに関する調査研究                              | 上野 聡  | 神経内科     | 700    | 補委 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 厚生労働省         |
| 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究                   | 上野 聡  | 神経内科     | 900    | 補委 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 厚生労働省         |
| MRIを用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出  | 上野 聡  | 神経内科     | 1,500  | 補委 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業) 厚生労働省 |
| 自己食空胞性ミオパチーの疾患概念確立とオートファジー機構の解明に関する研究    | 杉江和馬  | 神経内科     | 1,170  | 補委 平成20年度科学研究費補助金若手研究(B) 文部科学省             |
| 神経変性疾患原因蛋白の核内輸送と発症機序解明                   | 平野牧人  | 神経内科     | 1,690  | 補委 平成20年度科学研究費補助金基盤研究(c) 独立行政法人 日本学術振興会    |
| 神経変性疾患におけるDNA修復能の検討と修復促進による治療基盤の確立       | 上野 聡  | 神経内科     | 1,820  | 補委 平成20年度科学研究費補助金基盤研究(c) 独立行政法人 日本学術振興会    |
| 肝細胞移植及び肝組織作成治療の実現化にむけた全臨床研究              | 中島 祥介 | 消化器・総合外科 | 4,000  | 補委 文部科学省                                   |
| 小腸移植におけるグラフト腸管の障害・再生機構の解明とその制御           | 金廣 裕道 | 消化器・総合外科 | 2,200  | 補委 文部科学省                                   |
| 肝移植におけるvWF切断酵素の役割と新たな拒絶反応診断マーカーの開発       | 高 濟峯  | 消化器・総合外科 | 900    | 補委 文部科学省                                   |
| 潰瘍性大腸炎に対する新しい遺伝子デリバリーシステムを用いたBcl-XL遺伝子治療 | 小山 文一 | 消化器・総合外科 | 1,600  | 補委 文部科学省                                   |
| T細胞不活性化制御による新規治療法の臨床導入を目的とした発展的研究        | 庄 雅之  | 消化器・総合外科 | 2,200  | 補委 文部科学省                                   |
| 骨髄幹細胞を用いた腸管構成細胞の再生と炎症性腸管障害粘膜障害に対する治療への応用 | 向川 智英 | 消化器・総合外科 | 1,200  | 補委 文部科学省                                   |
| 脂肪由来幹細胞の幹細胞特異的分化誘導における微小動環境の影響           | 山田 高嗣 | 消化器・総合外科 | 2,200  | 補委 文部科学省                                   |
| 口腔がんにおける重粒子線療法の基礎的研究                     | 桐田忠昭  | 口腔外科     | 4,940  | 補委 日本学術振興会                                 |
| 静水圧ストレスによる顎関節滑膜細胞の応答                     | 川上哲司  | 口腔外科     | 1,170  | 補委 日本学術振興会                                 |
| 顔面の初期発生を制御する分子機構                         | 川上正良  | 口腔外科     | 1,820  | 補委 日本学術振興会                                 |
| インプラント埋入直後および骨結合後の周囲骨のリモデリングに動的荷重が与える影響  | 杉浦勉   | 口腔外科     | 3,250  | 補委 日本学術振興会                                 |
| 自己歯髄由来間葉系幹細胞を用いた唇顎口蓋裂患者の顎裂部の治療法の開発       | 稲掛耕太郎 | 口腔外科     | 1,560  | 補委 文部科学省                                   |

| 研究課題名  | 研究者氏名  | 所属部門        | 金額(千円) | 補助元又は委託元              |
|--|--------|-------------|--------|-----------------------|
| 新しい音伝導ルートによる新補聴システムの開発—既存の気導補聴器が使用できない難聴者(耳漏のある耳、外耳道閉鎖症など)も使用可能な補聴器の開発 | 細井裕司   | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 10,000 | 補委 厚生労働省              |
| 実環境で最重度難聴者用超音波補聴システムを実現するための基礎的・臨床的研究                                  | 細井裕司   | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 4,550  | 補委 文部科学省              |
| 頭頸部がんにおけるmTOR阻害薬による放射線増感効果の基礎的研究                                       | 太田一郎   | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,300  | 補委 文部科学省              |
| 微小振動音源を用いた発声装置の声質改善のための基礎的検討   | 阪口剛史   | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 520    | 補委 文部科学省              |
| 骨導超音波を用いた補聴器システムの評価と臨床導入   | 西村忠己   | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 1,820  | 補委 文部科学省              |
| 悪性黒色腫の転移におけるコネクシン26の役割の研究と転移阻害薬の開発                                     | 浅田 秀夫  | 皮膚科学        | 1,950  | 補委 独立行政法人 日本学術振興会     |
| 毛髪がタイガーテールを呈するトリコオジストロフィーの遺伝子変異と臨床症状の関連                                | 野見 恭子  | 皮膚科学        | 2,080  | 補委 独立行政法人 日本学術振興会     |
| 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究  | 浅田 秀夫  | 皮膚科学        | 1,500  | 補委 厚生労働省              |
| 帯状疱疹ワクチン開発のための疫学研究   | 浅田 秀夫  | 皮膚科学        | 2,500  | 補委 厚生労働省              |
| 画期的経皮免疫製剤の開発と実用化に資する研究総合推進   | 浅田 秀夫  | 皮膚科学        | 5,000  | 補委 独立行政法人 医薬基盤研       |
| 早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療の確率に関する研究                                   | 平尾佳彦   | 泌尿器科        | 500    | 補委 厚労省科研費             |
| 前立腺がんのリスク評価と化学予防   | 平尾佳彦   | 泌尿器科        | 800    | 補委 文科省科研費             |
| ガンマラクトン化合物を用いた腎障害後の進行を抑制する腎修復再生機構の解明                                   | 石橋道男   | 泌尿器科        | 1,690  | 補委 文科省科研費             |
| ユビキタス生体計測祖ヘルスケアデバイス・システムの開発—泌尿器計測モジュールの開発                              | 平尾佳彦   | 泌尿器科        | 8,635  | 補委 財団法人関西文化学術研究都市推進機構 |
| 腎疾患研究助成金   | 平尾佳彦   | 泌尿器科        | 500    | 補委 財団法人 大阪腎臓バンク       |
| 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療：瘤径推移に関する因子の検討                                     | 吉川 公彦  | 放射線医学       | 2,210  | 補委 科研費(基盤研究C)         |
| 肝癌に対する動注療法における薬物動態と血流改変術に関する研究   | 田中 利洋  | 放射線医学       | 2,080  | 補委 科研費(若手研究B)         |
| アルツハイマー病での辺縁系回路の拡散テンソル異常—臨床症状—予後との関連                                   | 田岡 俊昭  | 放射線医学       | 2,470  | 補委 科研費(基盤研究C)         |
| MRI画像(ECR法)を用いた腫瘍細胞に対する抗癌剤早期効果予測の基礎的研究                                 | 西尾福 英之 | 放射線医学       | 2,210  | 補委 科研費(若手研究B)         |
| 肝・胆・膵ならびに骨盤内悪性腫瘍に対する血流動態に応じた血管内治療法の開発に関する研究                            | 阪口 浩   | 放射線医学       | 1,000  | 補委 厚生労働省がん研究助成金分担     |
| 肝・胆・膵悪性腫瘍に対するIVR治療に関する研究   | 阪口 浩   | 放射線医学       | 1,000  | 補委 厚生労働省がん研究助成金分担     |

| 研究課題名                            | 研究者氏名          | 所属部門      | 金額(千円) | 補助元又は委託元   |
|----------------------------------|----------------|-----------|--------|------------|
| フオンゲイルプラント因子切断酵素による血栓形成制御に関する研究  | 西尾 健治<br>福島 英賢 | 救急医学      | 3,120  | 補委 日本学術振興会 |
| 新生児の血栓・DICの病因解明と治療法開発の基礎および臨床的研究 | 高橋幸博           | 新生児集中治療部門 | 1,690  | 補委 日本学術振興会 |
| 新生児病室の環境に関する研究                   | 高橋幸博           | 新生児集中治療部門 | 2,200  | 補委 住居医学    |
| 肝硬変腹水病態への腹腔マクロファージおよび反応性中皮細胞の関与  | 山崎 正晴          | 中央臨床検査部   | 650    | 補委 科研費補助金  |
|                                  |                |           |        | 補委         |
|                                  |                |           |        | 補委         |
|                                  |                |           |        | 補委         |
|                                  |                |           |        | 補委         |
|                                  |                |           |        | 補委         |

小計4

計61

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

| 雑誌名                             | 題名   | 発表者氏名        | 所属部門     |
|---------------------------------|--|--------------|----------|
| Antioxid Redox Signal           | Oxidative stress in obstructive sleep apnea: putative pathways to the cardiovascular complications.  | Yamauchi M.  | 呼吸器・血液内科 |
| Adv Exp Med Biol                | Post-hypoxic unstable breathing in the C57BL/6J mouse: effects of acetazolamide.   | Yamauchi M.  | 呼吸器・血液内科 |
| Respiration                     | Effect of serum leptin levels on hypercapnic ventilatory response in obstructive sleep apnea.  | Makinodan K. | 呼吸器・血液内科 |
| Eur Respir J                    | A small-molecule compound targeting CCR5 and CXCR3 prevents airway hyperresponsiveness and inflammation  | Suzaki Y.    | 呼吸器・血液内科 |
| Intern Med                      | Acute pulmonary thromboembolism associated with interstitial pneumonia.  | Makinodan K. | 呼吸器・血液内科 |
| Respir Physiol Neurobiol        | Post-sigh breathing behavior and spontaneous pauses in the C57BL/6J (B6) mouse.  | Yamauchi M.  | 呼吸器・血液内科 |
| J Appl Physiol                  | Effects of buspirone on posthypoxic ventilatory behavior in the C57BL/6J and A/J mouse strains.  | Yamauchi M.  | 呼吸器・血液内科 |
| Clin Neurol Neurosurg.          | Odor abnormalities caused by bilateral thalamic infarction.  | Asai H       | 神経内科     |
| Biochem Biophys Res Commun.     | Restoration of nuclear-import failure caused by triple A syndrome and oxidative stress.  | Kiriyama T   | 神経内科     |
| Muscle Nerve                    | Complete recovery of an aged patient with Guillain-Barré syndrome associated with multiple IgM anti-ganglioside antibodies.                                  | Furiya Y     | 神経内科     |
| DNA Repair                      | Comparative study of nucleotide excision repair defects between XPD-mutated fibroblasts derived from trichothiodystrophy and xeroderma pigmentosum patients. | Nishiwaki T  | 神経内科     |
| Intern Med.                     | Cerebral infarction associated with heparin-induced thrombocytopenia in a patient with encephalitis.   | Saito K      | 神経内科     |
| Clinical Medicine: Case Reports | Acute autonomic, sensory and motor neuropathy associated with meningoencephalitis.   | Kinoshita S  | 神経内科     |
| J Med Case Reports.             | Normothermic treatment in acute clinical encephalitis: a case report.  | Terashima M  | 神経内科     |

小計14

|   |  |                  |          |
|---|--|------------------|----------|
| Clinical Medicine: Case Reports   | Cerebral sinus and venous thrombosis associated with von Willebrand factor, independently of Factor VIII.                  | Terashima M      | 神経内科     |
| J Neuroimaging  | Early Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Imaging with Fluid-Attenuated Inversion Recovery in Multiple Sclerosis.         | Kataoka H        | 神経内科     |
| J Neuroimaging  | Artery-to-Artery Embolism with a Mobile Mural Thrombus Due to Rotational Vertebral Artery Occlusion.                       | Saito K          | 神経内科     |
| BMJ Case Reports.   | Subthalamic nucleus stimulation in Parkinson's disease is associated with a risk of fixed epiglottitis.                    | Kataoka H        | 神経内科     |
| BMJ Case Reports.   | Peripheral neuropathy in chromosome16q22.1 linked autosomal dominant cerebellar ataxia                                     | Furiya Y         | 神経内科     |
| J Neuroimaging  | Serial neuroimaging in Tolosa-Hunt syndrome with acute bilateral complete ophthalmoplegia                                  | Sugie K          | 神経内科     |
| Clin Neurol Neurosurg.  | Cerebrospinal fluid-orexin levels and sleep attacks in four patients with Parkinson's disease.                             | Asai H           | 神経内科     |
| Mov Disord.   | Increased medial temporal blood flow in Parkinson's disease with pathological hypersexuality.                              | Kataoka H        | 神経内科     |
| Clin Neurol Neurosurg.  | Treatable fluctuating mental impairment in a patient with Bardet-Biedl syndrome.   | Tonomura Y       | 神経内科     |
| Mov Disord.   | Reduced N-acetylaspartate in the basal ganglia of a patient with anti-NMDA receptor encephalitis.                          | Kataoka H        | 神経内科     |
| Liver Transplantation   | Plasma ADAMTS13 activity may predict early adverse events in living donor liver transplantation                            | Ko.S             | 消化器・総合外科 |
| Journal of Thrombosis and Haemostasis   | Establishment of embryonic stem cells secreting human factor VIII for cell-based treatment of hemophilia A                 | Nakajima.Y       | 消化器・総合外科 |
| Transplantation   | Therapeutic Effect of Hepatocyte Transplantation on Hemophilia B   | Nakajima.Y       | 消化器・総合外科 |
| The Journal Nara Medical Association  | Induction of Small Transplantation Tolerance by Donor-specific Bone Marrow Transplantation                                 | Kanehiro.H       | 消化器・総合外科 |
| American Association of Oral and Maxillofacial Surgeons J Oral Maxillofac Surg 66 | Panoramic Findings for Predicting Eruption of Mandibular Premolars Associated With Dentigerous Cyst After Marsupialization | Ryouske Fujii    | 口腔外科     |
| Human Immunology 69   | Association between soluble MICA levels and disease stage IV oral squamous cell carcinoma in Japanese patients             | Shigehiro Tamaki | 口腔外科     |

|   |  |   |             |
|---|--|---|-------------|
| 障害者歯科 第29巻 第1号  | 長期経管栄養者における口腔粘膜湿潤度と口腔ケア介入による効果   | 玉置盛浩  | 口腔外科        |
| Pathobiology 75   | Recurrence of Keratocystic Odontogenic Tumor: Clinicopathological Features and Immunohistochemical Study of the Hedgehog Signaling Pathway                 | Takahiro Yagyuu   | 口腔外科        |
| Cancer Sci vol99 no.9                                     | High mobility group box-1-inducible melanoma inhibitory activity is associated with Nodal metastasis and lymphangiogenesis in oral squamous cell carcinoma | Tomonori Sasahira   | 口腔外科        |
| 奈良医学雑誌 第59巻 第5号   | 顎顔面骨骨折の様態と治療   | 山本一彦  | 口腔外科        |
| HOSPITAL DENTISTRY&ORAL-MAXILLOFACIAL SURGERY Vol.20 No.1 | Descending Necrotizing Mediastinitis Caused by Odontogenic Infection   | SUGIURA Tsutomu   | 口腔外科        |
| Cancer Science vol,99 no.7                                | High LET radiation enhances apoptosis in mutated p53 cancer cells through Caspase-9 activation   | Nobuhiro Yamakawa   | 口腔外科        |
| 日本口腔腫瘍学会誌 第20巻 第4号  | 口腔進展癌に対する術前化学放射線同時併用療法の評価  | 桐田忠昭  | 口腔外科        |
| J.Radiat.Res. vol.49 No.6                                 | DNA Damage Recognition Proteins Localize along Heavy Ion Induced Tracks in the Cell Nucleus  | Akihisa TAKAHASHI   | 生物学         |
| Pediatric Neurology Vol. 38 Page 360-362                  | Usefulness of multifocal VEP in a child requiring perimetry.   | E. Yukawa, T. Matsuura, Y-J Kim, F. Taketani, Y. Hara           | 眼科          |
| Clinical Neurology and Neurosurgery Vol. 110 Page 592-598 | Objective visual field evaluation using multifocal visual evoked potentials in patients with intracranial disease complicated by mental disorders.         | E. Yukawa, T. Matsuura, Y-J Kim, N. Nitta, F. Taketani, Y. Hara | 眼科          |
| Journal of Nara Medical Association Vol. 59 Page 101-104  | The prevalence of hyperopia among people with 20/20 uncorrected visual acuity.   | M. Mine, Y. Nawa, Y. Hara                                       | 眼科          |
| 日本眼科学会雑誌 Vol. 112 Page 994-998                            | 正常眼圧緑内障に対するニブラジロール点眼の長期投与  | 湯川英一, 新田進人, 竹谷太, 松浦豊明, 森下仁子, 原嘉昭                                | 眼科          |
| 臨床眼科 Vol. 62 Page 2019-2023                               | 加齢黄斑変性に対する光線力学療法の評価  | 小島正嗣, 松浦豊明, 湯川英一, 太田丈生, 小林武史, 原嘉昭                               | 眼科          |
| Auris Nasus Larynx  | Laryngeal carcinoma in a non-smoker female patient with thyroid carcinoma: report of a case  | Hosoi H.  | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |
| Eur Arch Otorhinolaryngol                                 | Progressive hearing loss in intracochlear schwannoma   | Hosoi H.  | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |
| Neurosci Lett   | Assessment of ability to discriminate frequency of bone-conducted ultrasound by mismatch fields  | Hosoi H.  | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |

小計16

|                                      |   |             |             |
|--------------------------------------|---|-------------|-------------|
| J Neurol Neurosurg Psychiatry        | Fixed epiglottis associated with subthalamic nucleus stimulation in Parkinson's disease   | Yamanaka T. | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |
| Clin Cancer Res                      | Function of JunB in transient amplifying cell senescence and progression of human prostate cancer   | Ota I.      | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |
| Mol Biol Cell                        | Molecular dissection of the structural machinery underlying the tissue-invasive activity of membrane type-1 matrix metalloproteinase  | Ota I.      | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |
| J Am Acad Dermatol 58: 802-809, 2008 | Relationship among human herpesvirus 6 reactivation, serum interleukin-10 levels, and skin rash / GVHD after allogeneic stem cell transplantation.  | 北村華奈        | 皮膚科         |
| 夜間頻尿診療ガイドライン                         | 6. 診断－2. 夜間多尿   | 平山 暁秀       | 泌尿器科        |
| J Urol                               | The Relationship Between Nocturnal Polyuria and Distribution of Body Fluid: Assessment by Bioelectric Impedance Analysis  | K Torimoto  | 泌尿器科        |
| Prostate Cancer Prostatic Dis        | Age-stratified serum levels of isoflavones and proportion of equol producers in Japanese and Korean healthy men   | K Fujimoto  | 泌尿器科        |
| Prostate Cancer Prostatic Dis        | Isoflavone supplements stimulated the production of serum equol and decreased the serum dihydrotestosterone levels in healthy male volunteers   | M Tanaka    | 泌尿器科        |
| Urology                              | Variations in international prostate symptom scores, uroflowmetric parameters, and prostate volume after 125I permanent brachytherapy for localized prostate cancer                         | N Tanaka    | 泌尿器科        |
| Oncol Rep                            | Anti-tumor effect of cimetidine via inhibiting angiogenesis in <i>N</i> -butyl- <i>N</i> -(4-hydroxybutyl) nitrosamine-induced mouse and rat bladder carcinogenesis                         | Y Chihara   | 泌尿器科        |
| Mol Cancer Ther                      | Delivery of PTEN via a novel gene microcapsule sensitizes prostate cancer cells to irradiation  | 富岡厚志        | 泌尿器科        |
| Photochem and Photobiol              | siRNA-mediated Knockdown of the Heme Synthesis and Degradation Pathways: Modulation of Treatment Effect of 5-Aminolevulinic Acid-based Photodynamic Therapy in Urothelial Cancer Cell Lines | M Miyake    | 泌尿器科        |
| Int J Urol                           | Evidence-based clinical practice Guidelines for Prostate Cancer (Summary - JUA 2006 Edition)  | 平尾佳彦        | 泌尿器科        |
| Int J Urol                           | Guidelines for urological laparoscopic surgery  | 平尾佳彦        | 泌尿器科        |
| Int J Urol                           | Increase in 24-hour urine production/weight causes nocturnal polyuria due to impaired function of antidiuretic hormone in elderly men   | M Tani      | 泌尿器科        |
| Transplantation Proceedings          | Present status of pancreas transplantation in Japan—Donation predominantly from marginal donors and modified surgical technique: Report of Japan pancreas transplantation society.          | M Ishibashi | 泌尿器科        |

|                             |   |                     |           |
|-----------------------------|---|---------------------|-----------|
| 透析医誌                        | 血液透析症例の体水分分布に関する研究  | 米田龍生                | 泌尿器科      |
| 腎と透析                        | 病腎移植の問題点と今後の展開  | 吉田克法                | 泌尿器科      |
| Radiat Med                  | Initial experience of using the filter protection device during carotid artery stenting in Japan  | Katsutoshi Takayama | 放射線科医学    |
| Cardiovasc Intervent Radiol | Stent Fracture and Reocclusion After Placement of a Single Self-Expanding Stent in the Common Iliac Artery and Endovascular Treatment                         | Wataru Higashiura   | 放射線科医学    |
| Cardiovasc Intervent Radiol | Transarterial Chemoembolization Using Cisplatin Powder in a Rabbit Model of Liver Cancer  | Kengo Morimoto      | 放射線科医学    |
| Heart                       | Depressed recovery of subendocardial perfusion in persistent heart failure after complete revascularisation in diabetic patients with hibernating myocardium. | 水野麗子                | 総合医療学     |
| Intern Med                  | Influence of living style and situation on the compliance of taking antihypertensive agents in patients with essential hypertension.                          | 水野麗子                | 総合医療学     |
| 日本産婦人科・新生児血液学会雑誌            | 新生児DICの診断と治療:新生児DICの全国調査と治療の動向  | 西久保敏也・高橋幸博          | 新生児集中治療部門 |
| 日本産婦人科・新生児血液学会雑誌            | 大量臍出血をきたした出血性ショックに陥った臍部動静脈奇形的新生児例   | 柴田真理・高橋幸博、他         | 新生児集中治療部門 |
| 日本小児血液学会雑誌                  | ITP委員会:2006年ITP全国調査報告   | 三浦琢磨・高橋幸博他          | 新生児集中治療部門 |
| 日本小児血液学会雑誌                  | ITP委員会:ワクチン接種後に発症した特発性血小板減少性紫斑病について   | 北澤淳一・高橋幸博、他         | 新生児集中治療部門 |
| 日本小児血液学会雑誌                  | ITP委員会:小児特発性血小板減少性紫斑病(ITP)のQOL調査成績—管理ガイドライン作成に向けて—  | 三間屋純一・高橋幸博、他        | 新生児集中治療部門 |
| 日本未熟児新生児学会雑誌                | Stress-Velocity関係を指標としてarginine vasopressionで管理したdopamine不応性低血圧の超低出生体重児の1例  | 釜本智之・高橋幸博、他         | 新生児集中治療部門 |
| 周産期医学                       | 凝固・線溶系  | 高橋幸博                | 新生児集中治療部門 |
| 周産期医学                       | 新生児出血性疾患の診断と管理  | 高橋幸博・西久保敏也          | 新生児集中治療部門 |
| 今日の治療指針(医学書院)               | 新生児の敗血症、髄膜炎   | 高橋幸博                | 新生児集中治療部門 |
| 奈良医学雑誌                      | ゾニサミドが著効した軽症PVL(periventricular leukomalacia)関連性West症候群の1例  | 柴田真理・高橋幸博、他         | 新生児集中治療部門 |
| 臨床病理                        | 脳波のトント除去ゆらぎ解析(DFA)による精神作業の検出  | 今井 竜子               | 中央臨床検査部   |
|                             |   |                     |           |
|                             |   |                     |           |

小計18

計80

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 管理責任者氏名 | 病院長 榎 壽右                   |
| 管理担当者氏名 | 医療サービス課長 南浦 健、 病院管理課長 上浦 豊 |

|   |  | 保管場所                           | 分類方法  |
|---|--|--------------------------------|---|
| 診療に関する諸記録<br>病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約 |  | 外来カルテ庫、入院カルテ庫、薬剤部、中央放射線部、電子カルテ | 個々の患者の諸記録は、カルテとともに整理し一括保管。<br>エックス線写真は、中央放射線部で一括保管。<br>諸記録、エックス線写真とも、あわせて電子カルテにも保存。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録  | 従業者数を明らかにする帳簿                              | 総務課<br>病院管理課                   |   |
|   | 高度の医療の提供の実績                                | 医療サービス課<br>各診療部                |   |
|   | 高度の医療技術の開発及び評価の実績                          | 医療サービス課<br>各診療部                |   |
|   | 高度の医療の研修の実績                                | 各診療部                           |   |
|   | 閲覧実績                                       | 医療サービス課<br>病院管理課               |   |
|   | 紹介患者に対する医療提供の実績                            | 医療サービス課                        |   |
|   | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿                  | 医療サービス課<br>薬剤部                 |   |
| 確規保則の第9条及び第11条各号に掲げる体制  | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況                      | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況                         | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況                        | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況         | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況                       | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況                      | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況                     | 様式13-2<br>のとおり                 |   |
|   | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 様式13-2<br>のとおり                 |   |

|   |                       | 保管場所  | 分類方法           |
|---|-----------------------|---|----------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録  | 規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況                                       | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 院内感染対策のための委員会の開催状況                                    | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況                              | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況           | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況                            | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況                            | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況            | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況                                 | 様式13-2<br>のとおり |
|   |                       | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況                           | 様式13-2<br>のとおり |
| 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況                           | 様式13-2<br>のとおり        |   |                |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 様式13-2<br>のとおり        |   |                |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

|             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 閲覧責任者氏名     | 医療サービス課長 南浦 健                    |
| 閲覧担当者氏名     | 医療サービス課課長補佐 米田 学、病院管理課課長補佐 西村 和也 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 医療サービス課事務室、病院管理課事務室              |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

|           |        |   |   |
|-----------|--------|---|---|
| 前年度の総閲覧件数 | 延      | 0 | 件 |
| 閲覧者別      | 医師     | 延 | 件 |
|           | 歯科医師   | 延 | 件 |
|           | 国      | 延 | 件 |
|           | 地方公共団体 | 延 | 件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

|      |                        |      |                      |
|------|------------------------|------|----------------------|
| 紹介率  | 69.7%                  | 算定期間 | 平成20年4月1日～平成21年3月31日 |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数              |      | 16,153人              |
|      | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数  |      | 10,176人              |
|      | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 |      | 2,522人               |
|      | D: 初診の患者の数             |      | 30,080人              |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

|   |   |
|---|---|
| ① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況   | <input checked="" type="checkbox"/> ( 2 名 ) ・ 無 |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  | <input checked="" type="checkbox"/> ( 1 名 ) ・ 無 |
| ③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況   | <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無         |
| ・ 所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 3 ) 名<br>・ 活動の主な内容： 別添のとおり  |   |
| ④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況  | <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無         |
| ⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況  | <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無         |
| ・ 指針の主な内容： 別添のとおり   |   |
| ⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況   | 年 1 2 回   |
| ・ 活動の主な内容： 別添のとおり   |   |
| ⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況  | 年 1 7 回   |
| ・ 研修の主な内容： 別添のとおり   |   |
| ⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況  |   |
| ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )<br>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br>別添のとおり |   |

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

|  |         |
|--|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況  | ☑・無     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：<br/>別添のとおり</li> </ul>  |         |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況   | 年 1 2 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：<br/>別添のとおり</li> </ul>  |         |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況   | 年 2 回   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：<br/>別添のとおり</li> </ul>  |         |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況  |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ☑・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br/>別添のとおり</li> </ul> |         |

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |       |
|--|-------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況   | ☑・無   |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況   | 最低年2回 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：「薬剤の適正使用について ―知っておきたい用法用量―」9/25</li> </ul>  |       |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (☑・無) 手順書は平成19年7月に作成し20年7月に改訂し医療安全管理委員会の承認を得た。電子カルテで閲覧可とした。</li> <li>・ 業務の主な内容：<br/>           薬剤師が各科外来・病棟等を巡回し手順書に記載されている項目が遵守できているかチェックリストにより確認・記録している。<br/>           薬剤部内についても、チェックリストに基づき確認・記録している。</li> </ul>  |       |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無) 製薬会社・インターネット等により収集し、電子カルテにより情報を周知している。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br/>           薬剤部：医薬品の調剤時取り違いを防止するため「取り揃えリスト」を導入し使用の徹底を強化した。さらにハイリスク薬等については携帯端末（PDA）を導入した。<br/><br/>           病院：①薬剤の投与患者間違いを防止するため「患者誤認防止ポスター」を作成したり患者認証を徹底した。<br/><br/>           ②先発医薬品から後発医薬品に切り替える時、危険性の高いものについては特に注意が必要なものとして周知するようにした（例：エフオーワイ注からレミナロン注）<br/>           周知徹底にはニュースレターを利用している。</li> </ul> |       |

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |     |
|--|-----|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況  | ☑・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況  | 年3回 |
| <p>・研修の主な内容：「3 TMR装置の安全管理」5/18、20<br/> 「医療ガスの安全管理（設備における安全・ME機器使用時における安全）」<br/> 7/24</p>                               |     |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況  |     |
| <p>・ 計画の策定 ( ☑・無 )<br/> ・ 保守点検の主な内容：<br/> 人工心肺装置、人工呼吸器、血液浄化装置、助細動装置、閉鎖式保育器<br/> 診療用高エネルギー装置、（麻酔器、電気メス）</p>             |     |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  |     |
| <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )<br/> ・ その他の改善のための方策の主な内容：<br/> メーカーから供給される情報につき、該当機器の有無の確認と該当機器を保有している部署への情報提供を行っている。</p> |     |

## 安全管理体制の確保状況調書

【病院名：奈良県立医科大学附属病院】

### 1. 医療の安全の確保について

(1) 医療に係わる安全管理のための指針 ※該当項目を■にて表示すること（以下同様）

|                                     |   |   |
|-------------------------------------|---|---|
| ① 指針の整備等の状況                         | 平成 14年 10月 1日 策定  |   |
| 指針の変更（改正）を行っているか。<br><br>(前回の検査以降分) | <input type="checkbox"/> 有 (平成 19年9月1日 全部・一部改正)<br><input checked="" type="checkbox"/> 無  |   |
|                                     | 【改正した内容】  |   |
|                                     | 医療に係る安全管理のための委員会での変更(改正)承認日   | 平成 年 月 日  |
| ② 必要に応じて整備することが望ましい事項の状況            | 各部門毎の安全管理のためのマニュアル等の整備  | <input type="checkbox"/> 部門毎のマニュアル（該当の場合は部門名を別紙にて添付）<br><input checked="" type="checkbox"/> 診療行為別マニュアル<br><input type="checkbox"/> 部門別・診療行為別マニュアル<br><input checked="" type="checkbox"/> マニュアルのオンライン化<br><br>【直近一年の内容等の整合性、見直しの実施状況及び今後の計画】<br>・「麻薬」の改訂<br>・「医療機器安全管理規程」の改訂<br>・「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂<br>・「採血・注射（血管外漏出時の対応）」の改訂<br>(今後の計画)<br>・「指針」・「規程」・「マニュアル」等の改正 |
| ③ ア) 病院職員へ周知しているか。（変更した場合を含む）       | 【全体版マニュアル等の作成】<br><input type="checkbox"/> 全員配布 <input checked="" type="checkbox"/> 各部署に配布 <input type="checkbox"/> 幹部のみ <input type="checkbox"/> 無 |   |
|                                     | 【携帯版マニュアル等の作成】<br><input type="checkbox"/> 全員配布 <input type="checkbox"/> 各部署に配布 <input type="checkbox"/> 幹部のみ <input checked="" type="checkbox"/> 無 |   |
|                                     | 【その他の方法による周知】<br>・リスクマネージャー会議において、改正概要の説明<br>・電子カルテ上の医療安全HPに全体版マニュアルを掲載。各医療者が容易に参照できる。<br>(そのため、携帯版マニュアルの作成は不要としている。)                               |   |
| その他                                 | ○ 周知状況等の把握・検証(各部署及び安全管理を行う部門等の状況)<br><br>(※指針に限らず医療安全情報を含む)   | リスクマネージャー会議での議題を、リスクマネージャーが各所属での部署内ミーティング時に周知する。その実施概要をリスクマネージャー活動報告書の提出により把握している。その他、院内ラウンドや医療安全認識度チェックなどにより、職員に周知されているか検証を行っている。<br><br><input type="checkbox"/> 院内の相互チェック <input checked="" type="checkbox"/> 院内ラウンド・パトロール<br><input checked="" type="checkbox"/> 自己チェック <input type="checkbox"/> 他病院との相互チェック<br><input type="checkbox"/> その他 ( )                  |
| イ) その他<br>(今後の取組・見直し等)              | 全般的に必要なに応じて、見直し改正を行っていく。<br>その周知状況についても、院内ラウンド、自己チェックなどを定期的実施し、検証していく。  |   |



(2) 医療に係わる安全管理のための委員会

|                             |                           |   |   |             |  |
|-----------------------------|---------------------------|---|---|-------------|--|
| ① 委員会の設置状況                  | 名 称                       | 医療安全管理委員会   |   |             |  |
|                             | 設 置                       | 平成 6 年 9 月 日 設置<br>(平成20年 8月 6日 変更)   |   |             |  |
| ② 管理および運営に関する規程(委員会規程)の整備状況 | 委員会規程の変更を行っているか。(前回調査以降分) | <input type="checkbox"/> 有 (平成 年 月 日 改正)<br><input checked="" type="checkbox"/> 無 |   |             |  |
|                             |                           | 【改正した内容】  |   |             |  |
| ③ 委員会の構成員等                  | 委員 長                      | 古家 仁  | 委員 数                                    | 15 人        |  |
|                             | 委員名簿                      | (別紙「委員名簿(※職名のみの記載で可)を添付)  |   |             |  |
| ④ 委員会の開催状況                  | 定例会                       | 毎月  | ・1回開催                                   | 前年度開催実績 12回 |  |
|                             | 議事録の整備                    | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無                  |   |             |  |
|                             | 委員の出席状況                   | 直近の開催日  | 平成21年 9月 1日 開催                          |             |  |
|                             |                           | 出席委員数   | 1 3 人 / 1 5 人 中                         |             |  |
|                             | 欠席した委員への伝達状況              |   | 医療安全推進室員が委員会資料を配付(必要に応じて安全管理者より重要事項を報告) |             |  |
| ⑤ 医療事故の原因調査等のための委員会の設置状況    | 委員会の設置の有無                 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (平成16年 8月設置) <input type="checkbox"/> 無     |   |             |  |
|                             | 委員会の名称                    | 医療事故調査委員会   |   |             |  |
|                             | 規程の整備                     | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (平成16年 8月設置) <input type="checkbox"/> 無     |   |             |  |
|                             | 安全管理委員会との関係               | 併置(事故調査委員会での原因究明の結果を受けて安全管理委員会で再発防止策の検討を行う)                                       |   |             |  |
|                             | 医療事故発生時の対応手順等の作成状況        | ・医療安全管理指針内で明記(別添参照)<br>・医療安全管理マニュアル 総論 内で明記                                       |   |             |  |

(3) 医療に係る安全管理のための職員研修（全職員を対象とした研修）

|                               |                                    |   |
|-------------------------------|------------------------------------|---|
| ① 医療機関全体に共通する全職員を対象とした研修の開催状況 | 前年度の開催実績                           | (合計) 16回  |
|                               | 参加延職員数等                            | 延 4,793人(職員数 1,200人)<br>[職員一人当たり 4.0回/年]  |
| ② 記録整備                        | ■開催案内 ■研修内容 ■出席者名簿 ■出席者集計 □その他 ( ) |   |
| ③ 研修計画                        | ■年間計画を作成 □半年ごとに策定 □その他 ( )         |   |
|                               | 計画を策定する組織等                         | 医療安全推進室   |
| ④ 実施した(計画している)研修内容            | 前年度実績                              | 4/10~25 6/16~27 BLS・AED訓練<br>4/25 「医療安全管理活動について」<br>5/26.29 「感染症セクターMR入室時の注意」<br>6/25 「一般人のリスク認知」<br>7/25 「安全な医療機器の取扱い(パルスオキシメータ・心電図)」<br>8/25 「安全な医療機器の取扱い(人工呼吸器)」<br>9/1~12 気管内挿管の介助 9/25 「眠剤服用による転倒・転落」等   |
|                               | 今年度計画(実績)                          | 4/6 新採用・異動職員医療安全管理研修<br>4/13~5/1 BLSとAED<br>4/25 リスクマネージャー医療安全管理研修 5/11<br>~15 感染症セクター<br>5/18.20 3TMR装置の安全管理<br>5/25 院内トラブル発生時の対応及び交通安全について 等<br>今年度参加延職員数 [ ] 人   |
| ⑤ その他                         | ア) 開催についての職員への周知方法                 | リスクマネージャー会議での周知。ニュースレターでの周知。所属長、リスクマネージャーへ開催案内の送付と参加働きかけを依頼。医療安全HPの掲示板に掲載。開催直前に院内放送。  |
|                               | イ) 職員からの研修内容等に関する意見・要望等の聴取の実施      | アンケートの実施 ■実施している □実施していない<br>【アンケート以外で実施している方法】<br>医療安全推進室で随時対応   |
|                               | ウ) 研修への参加状況確認(参加者の把握)の実施等          | 出席者名簿の作成 ■実施している □実施していない<br>【出席者名簿以外の方法】<br>研修参加者に受講シールを配布(名札に受講シールを貼る)<br>【参加を促すための具体的方策(恒常的欠席者の把握方法や対策)】<br>・リスクマネージャーに各所属欠席者名簿を配布し、参加を促す。<br>・医療安全管理委員会、病院運営協議会で、各所属の出席状況資料を配付。<br>【研修会の欠席者に対する伝達講習等の周知方法】<br>・各リスクマネージャーに研修資料を配付し、部署内ミーティング等で伝達講習の開催を依頼している。<br>・研修会の録画ビデオ・研修に使用したDVD等の貸出。 |
|                               | エ) 新規採用医師・研修医・看護師を対象とする研修の実施状況     | 新規採用医師 ■実施している □実施していない<br>【内容及び参加状況】<br>新採用・異動職員医療安全管理研修会]4/6 .9時~15時半<br>・医療安全管理体制 ・MR検査の安全管理 ・院内における暴言・暴力・クレームの基本対応<br>・医薬品の安全管理 ・医療事故防止対策 ・採血・注射 ・患者の不規則行動への対処<br>・ヒューマンエラーと情報伝達 ・BLSとAED ・医療機器の安全管理<br>( 35名中 33名参加)   |
|                               | 研修医                                | ■実施している □実施していない<br>【内容及び参加状況】<br>同上<br>( 54名中 54名参加)   |
|                               | 看護師                                | ■実施している □実施していない<br>【内容及び参加状況】<br>同上<br>(135名中134名参加)   |
|                               | オ) その他                             | ・医療安全研修を毎月開催するほか、特定月には同じ内容の研修を複数回開催することで、多数の受講を促進している。  |

(4) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策

|  |  | 平成14年10月 1日 施行  |                                     |
|--|--|---|-------------------------------------|
| ① 報告制度に関する規程等の整備   | 内<br>容   | ① 委員会等への報告ルート<br>② 収集する報告の事例（合併症への対応等）<br>③ 報告時期<br>④ 医療機能評価機構への報告<br>⑤ 時間外等の報告手順<br>※上記①～⑤について、規程等の該当部分に下線を付し、それぞれの該当番号を記入すること。  |                                     |
|  |  | ※インシデント等発生時の各部署における対応状況。（RMの対応状況）→報告方法→報告受領後の問題点の把握、分析方法→改善策の検討、決定方法等を具体的に記入のこと。  |                                     |
| ② 病院内における安全管理に関する問題点の把握・分析を通じた病院組織としての改善策の検討（各部署及び安全管理を行う部門等の状況） | インシデント発生→RM又は所属責任者へ報告→RMは、患者への影響度、患者の反応、合併症の有無などを勘案し、緊急報告の必要性を判断→インシデント・アクシデント状況報告書の作成→医療安全推進室で報告受理（重大事故は院長・医療安全管理委員長に随時報告）→分析・対策検討チーム会で要因分析・対策案作成→RM会議で対策案に対する意見収集→医療安全管理委員会に対策案を審議・承認→病院運営協議会で医療安全管理委員会での審議結果報告→医療安全推進室が中心となり改善策を実施推進→RM会議、医療安全推進室HP及び医療安全ニュースレターで改善策の周知→各RMが各所属内のミーティングで改善策を周知→改善策の実施→各RMは、所属内ミーティングの開催状況等をRM報告書により医療安全推進室に報告→医療安全推進室により医療安全認識度チェック、院内ラウンドなどで改善策の実施状況を検証→医療安全推進室から医療安全管理委員会、病院運営協議会へ医療安全に関する状況報告。 |   |                                     |
| ③ 医療事故等の発生報告書（アクシデント・インシデント報告書等）の提出状況                            | 平成21年度   | <input checked="" type="checkbox"/> 2,879 件（うち、医師の報告件数 66 件）<br>（うち、臨床研修医の報告件数 5 件）<br><input checked="" type="checkbox"/> 5 件（うち、医師の報告件数 2 件）<br>（うち、臨床研修医の報告件数 1 件）   |                                     |
|  | 平成19年度   | <input checked="" type="checkbox"/> 2,645 件（うち、医師の報告件数 106 件）<br>（うち、臨床研修医の報告件数 20 件）<br><input checked="" type="checkbox"/> 9 件（うち、医師の報告件数 4 件）<br>（うち、臨床研修医の報告件数 0 件） |                                     |
|  | 平成18年度   | <input checked="" type="checkbox"/> 2,182 件（うち、医師の報告件数 69 件）<br>（うち、臨床研修医の報告件数 3 件）<br><input checked="" type="checkbox"/> 8 件（うち、医師の報告件数 2 件）<br>（うち、臨床研修医の報告件数 0 件）   |                                     |
|  | 平成 21 年  | 6月（ 355 件）<br>7月（ 364 件）<br>8月（ 329 件）  | 【最近3箇月の状況】<br>今年度累計件数<br>（ 1,048 件） |
|  | 報告の電子化   | <input checked="" type="checkbox"/> 有   | <input type="checkbox"/> 無          |
| 報告制度についての職員等への周知状況等（各部署及び安全管理を行う部門等の状況）                          | 【部署別の提出状況と周知状況】<br>・リスクマネージャー会議での周知<br>・部署内ミーティングにおけるリスクマネージャーから職員への周知<br>・医療安全ニュースレターによる周知<br>・医療安全管理研修による周知  |   |                                     |
| ④ その他（今後の取組等）  | 医療機能評価機構への報告件数：前年度 5 件<br>今年度（直前まで） 1 件<br>報告制度を当然の業務として全職員に認識させ、各所属に対し報告内容及び結果がフィードバックしやすいシステムを構築する。  |   |                                     |

(5) 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置

|                      |  |  |
|----------------------|--|--|
| ① 配置状況               | 配置年月日  | 平成 15年 4月 1日 (当初)<br>平成 20年 4月 1日 (現職)                           |
|                      | 所属部門・部署  | 中央部門・医療安全推進室   |
|                      | 職名・氏名  | (職名) 室長補佐・安全管理者  |
|                      |  | (氏名) 米澤 友子   |
| 有する資格                | <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師<br><input type="checkbox"/> 薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師  |  |
| ② 医療安全に関する必要な知識の修得状況 | 【取得のために受講した研修等(研修名、期間、主催者名を記載)】<br>H20.5/14~16 国公立大学附属病院リスクマネージャー研修 文部科学省 大阪大学附属病院中央クオリティマネジメント部<br>H20.7/4.12・30 8/22・28 医療安全管理者研修 奈良県・奈良県病院協会主催<br>H20.8.10~12 医療安全教育セミナー2008夏期 国際予防医学リスクマネジメント連盟 H20.9.16~19、<br>10.22~10.24 H20年度医療安全管理者養成研修 社団法人日本看護協会H21.6/24~26 国公立大学附属病院リスクマネージャー研修 文部科学省 大阪大学附属病院中央クオリティマネジメント部 |  |
| ③ 安全管理委員会への参加        | 参加についての規定の有無   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ④ 従事している業務内容         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故の防止に関する業務</li> <li>・重大な、又は部門を横断する医療事故発生後の対応と調整等に関する業務</li> <li>・医療安全に関する教育・啓発等に関する業務</li> </ul>  |  |
| ⑤ その他                |  |  |

(6) 医療に係る安全管理を行う部門

|               |   |   |  |
|---------------|---|---|--|
| ① 設置状況        | 設置年月日   | 平成15年 4月 1日   |  |
|               | 部門の名称   | 医療安全推進室   |  |
|               | 組織上の位置づけ  | 附属病院 中央部門   |  |
|               | 構 成 員   | 職 名   |  |
|               |   | (部門の長) 室長(統括安全管理者・麻酔科教授)古家 仁 (□専任・■兼任)<br>(構成員) 室長補佐(安全管理者・看護副部長)米澤 友子 (■専任・□兼任)<br>副安全管理者(集中治療部助教)河野安直 (□専任・■兼任)<br>副安全管理者(薬剤部係長)小南 清司 (□専任・■兼任)<br>副安全管理者(看護師長)福山 麻里 (□専任・■兼任)<br>嘱託 川野 真実子 (■専任・□兼任)<br>専任者 2名 兼任者 4名 計 6名 |  |
| 組織規約等         | 平成15年 4月 1日 施行<br>平成20年 2月27日 改正  |   |  |
| ② 担当する業務内容    | 【平成14年10月7日付医政局長通知(特定機能病院における安全管理のための体制の確保)に定められた業務以外に行っている業務】<br>該当なし  |   |  |
| ③ 組織横断的な活動の実績 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院全部署のリスクマネージャーが参加するリスクマネージャー会議を毎月開催し、組織横断的な医療安全に関する検討、実施及び周知活動を行っている。</li> </ul> |   |  |